



大切にしたい「感謝」の心

2月6日金曜日。この日に行われた2つの行事では「感謝」ということについて、改めて考えさせられました。その一つは、3年生への「マーガレット贈呈式」です。



朝早くから、6名の生産者の方が来校し、マーガレットの花束を3年生に贈ってくださいました。みなさんもよく知っていると思いますが、庄内半島ではマーガレット生産が盛んで、香川県はマーガレット生産量が日本一なのです。また、マーガレットは、成長が旺盛で次から次へと花が咲き長持ちし、「落ちない花」として受験生にとって縁起のいいものです。こうした理由から、受験に向けてがんばれ！という願いを込めて、地元中学校の受験生を励ますために贈呈してくれているのです。この取り組みは今年で5回目となりました。ありがたいことですね。いただいたマーガレットは3年生の昇降口にすぐに3年団の先生方が飾ってくれました。このマーガレットを見るたびに、地元の方からの応援に感謝して、しっかりがんばってください。

二つ目は、2年生の「立志ラリー」です。

14歳という年齢は、大人への一つの節目だと考えられています。古来、日本では14歳ごろに元服式といって子どもから大人になる儀式を行っていました。その日から仕事やそれにとまなう責任も持たされ大人と同じ扱いを受けました。それまでのように甘えてはいけなくなるのが、この日だったそうです。現在の刑法でも14歳からは「大人」とみなされて厳しくなります。そこで「何事にも甘えずに困難を乗り越える体験を！」と約20kmの行程を近隣の高校を訪ね歩きながら完歩する「立志ラリー」を実施しました。



前日の悪天候とは違って変わり、朝から快晴でした。ありがたいなあ、まず天候に感謝する気持ちが湧いてきました。詫間駅に集合した2年生は、3コースに分かれて電車に乗り込みそれぞれの駅で降りた後、ラリー開始。引率の先生が先頭と後尾になり、30人から40人でまとまって、励まし合いながらしっかりと歩いていました。この姿を見て、励まし合えるなかまがいることはありがたいなあ、と感じました。一人ではなくなかまがいることでどれほど励みになるか、特に困難に立ち向かう時は、なおさらありがたく感じました。

君たちには、応援してくれる地元の人や家族、先生、そして励まし合えるなかまたちがいます。当たり前のように、実は当たり前ではないのです。何かをしてくれたことに「感謝」や「ありがとう」という気持ちで接すると、これまで当たり前になっていたことが、実は「有り難いこと」だったと気づきます。

「有り難い」と思う「感謝」の気持ちを持つことが、きっと君たちを成長させてくれることでしょう。